

安曇野の農業のリアル

数字で農業を見てみよう！

全国的に高齢化・人口減少が進み、本市でも農業の担い手が減少しています。私たちの暮らしに欠かすことのできない「食」を支える「農業」を維持するために安曇野の農業の今を見つめ、未来を考えてみましょう。

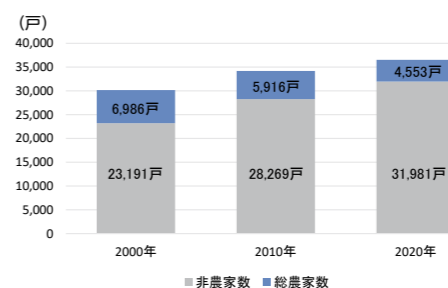
大切な財産 農業を守る

初 夏の水田に映る北アルプスの水鏡、黄金に輝く稲田、真っ赤に色づいたリンゴ畑や真っ白なソバ畑。農の営みは豊かな食や風景を創り出しています。

市では、安曇野の大切な財産「田園風景」と共にある、農のある暮らしを守るため、「第3次農業・農村振興基本計画（令和4～8年度）」を策定しています。

今回は、信州大学農学部との協力を得て実施したアンケート・ヒアリング結果と最新の農林業センサス2020の結果から分かってきた安曇野の農業の現状を「数字」を切り口に紹介します。

全世帯に占める総農家数の割合



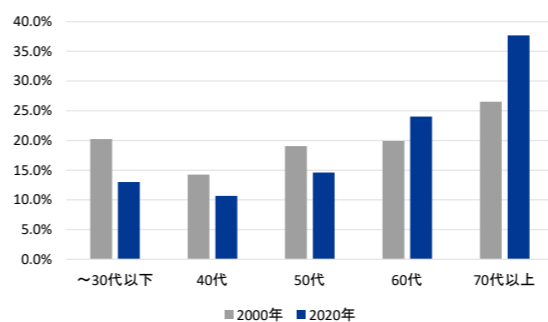
資料：農林業センサス、国勢調査

総農家数 4,553 戸 ※

農業を仕事とする人が減り、2000年の6,986戸から2,433戸（34.8%）減少しています。世帯割合から見ても、20年前は、おむおね4戸に1戸が農家世帯でしたが、現在は8戸に1戸まで減少しています。

※経営耕地面積が10a以上または農産物販売金額15万円以上の農家

年齢別農業従事者割合（自営農業に従事した世帯員）



資料：農林業センサス

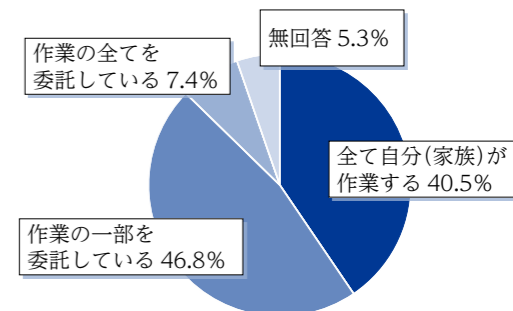
仕事として主に農業に

従事している人の平均年齢 70.21 歳

前回（2015年）調査と比較して市内では0.41歳上昇しており、安曇野の農業は、多くの元気な高齢の農業者に支えられていることがわかります。また、長野県平均は、69.4歳となっており、全県と比較しても高齢化が進んでいます。



農作業を外部に委託している人の割合



資料：2020 農業・農村振興に関するアンケート調査（R2.12月～R3.1月に市が実施。市内で農業生産を行う個人農家1,000件を対象に実施、457件回答）

農業と関わり暮らしをより豊かに

信州大学学術研究院（農学系）助教 小林みずき さん

63.2% この数字は、今回、市内農業者を対象にしたアンケートで「農業に携わってよかった」と答えた人の割合です。高齢化、担い手不足などマイナス面ばかりが目立つ農業ですが、食べ物を自らの手で作ることで得られる学びや充足感はもちろん、家族と一緒に働けるメリットや親戚・知人の喜ぶ姿など、農業には何にも代えがたい効用があり、これらが農業者の満足度につながっていると考えられます。今回の調査からは、農業法人や認定農業者と呼ばれる「担い手」のもとへ農地が集まりつつある一方で、将来の担い手へ地域の農業を継承していく重要な役割を担う集落営農組織等で、若者の参加が少ない状況がわかりました。産業としての農業振興と並行し、居住空間としての農村を守るために、将来の担い手の確保や農業に関係する市民を増やしていくことが大切です。



はじめよう！みんなで農業

安曇野のシンボルのひとつでもある農業は、担い手の高齢化や減少が進んでいます。今後、この田園風景を守っていくには、市民の皆さんに農業について考えていただくことが必要です。作ること、食べること、少しの興味と意欲があれば、誰もが農業へ参加できます。農のある暮らしを始めてみませんか？

農業に興味は？

ある！やりたい！ ↓

どのように農業と関わりたい？



- ① 農業体験をしてみたい → A
- ② 農家さんのお手伝いがしたい → B
- ③ 自家野菜を栽培し農的生活をしてみたい → C
- ④ 農業を仕事にしたい → D

A. 農業体験講座でスキルアップ！

市では、年間を通じてさまざまな農作物の栽培体験ができる講座が開設されています。基礎知識を学んでみましょう！

講座の紹介 ID 84073

B. 農作業サポート 地域活動への参加

人手不足の農家を支援するため、お手伝いの募集があります。また、地域で農業体験ができることも。近所の農家さんと直接触れ合うことで、見える景色も変わってくるかもしれません。



1日農業・バイトデイワーク

C. 家庭菜園にチャレンジ！

自分で栽培した野菜のおいしさは格別！初心者には、農業技術アドバイザーが相談に応じます。また、自宅に畑がない場合、市民農園を利用したり、小規模農地を借りることも可能です。

農業技術アドバイザー ID 84072
市民農園 ID 61872

D. まずは情報収集を！

農業を仕事にするには、熱意・意欲だけでなく、知識を得て、しっかり計画を立てることが必要です。就農相談室もありますので、分からないことがあれば気軽に相談ください。

就農相談室 ID 64820

あまりない・・・
忙しくて・・・ ↓

地元産を買って応援！

自分で畑を耕し、農作物を栽培することだけが農業との関わりではありません！地元生産者が作った農作物を買うことも農地の維持につながります。昨年度、市が実施した「市政全般に関する意識調査」では、「地元農産物を積極的に購入する」と答えた市民の割合が**26.8%**でした。地域での消費を意識する人が増えれば、農家所得の向上や、農業者のやりがいにもつながり、農地の維持が図られます。

まずは、地元産の農産物に目を向けることから始めてみましょう！



地元の農家さんが作った新鮮で安心な野菜を食べよう！

直売所の紹介 ID 64979

農政課 71・2427